

Title	東京歯科大学千葉病院口腔外科における平成22年度初診患者の臨床統計
Author(s)	中田, 江利加; 折戸, 聡; 藤本, 侑子; 太尾, 英子; 川上, 真奈; 恩田, 健志; 山本, 信治; 野村, 武史; 山内, 智博; 須賀, 賢一郎; 中野, 洋子; 大畠, 仁; 高木, 多加志; 内山, 健志; 高野, 伸夫; 柴原, 孝彦
Journal	歯科学報, 111(4): 435-435
URL	http://hdl.handle.net/10130/2557
Right	

No.21：東京歯科大学千葉病院口腔外科における平成22年度初診患者の臨床統計

中田江利加, 折戸 聡, 藤本侑子, 太尾英子, 川上真奈, 恩田健志, 山本信治, 野村武史,
山内智博, 須賀賢一郎, 中野洋子, 大島 仁, 高木多加志, 内山健志, 高野伸夫, 柴原孝彦
(東歯大・口外)

目的：東京歯科大学口腔外科は昭和56年9月大学の千葉市への移転を機に開設され、地域歯科医師会の協力のもと、医療連携を重視しながら特定機能病院の歯科口腔外科として、高次で高度な医療を提供してきた。そこで今回、口腔外科における医療提供の内容と質の向上を目指すために平成22年度の初診患者の臨床統計を行った。

方法：今回は平成22年4月1日から平成23年3月31日までの1年間における当科の初診患者を対象として、日本口腔外科学会調査企画委員会が作成した実績調査表に基づき、性別、年齢分布、月別患者数、来院の主訴、受診経路、来科地域、疾患別、基礎疾患の有無についての臨床統計を行った。

成績：平成22年度の初診患者数は8,297例であり、そのうち女性は4,928人、男性は3,369人であった。年齢分布は生後1週間の新生児から97歳までにおよび、平均年齢は42歳であった。年齢別患者数は20歳代が最も多く、このうち歯の疾患、特に埋伏関連疾患が多数を占めていた。年齢層が上がるにつれ、基礎疾患有病者率が高くなり、歯周疾患、口腔粘膜疾

患の割合の増加が認められた。主訴としては疼痛が最も多かった。受診経路は一般開業歯科からの紹介受診が5,312人と、全体の約64%を占めており、院内からの紹介は2,442人で全体の約29%であった。紹介患者の来科地域は多くは千葉県で、その約半数が千葉市であった。疾患別では歯の疾患が過半数を占めており、ついで顎関節疾患が多かった。基礎疾患を有している患者は2,633人と全体の約32%で、そのうち高血圧症が最も多かった。

考察：平成22年度は、3月11日に東北地方で起きた大震災の影響を受け、一時的に診療の中止を余儀なくされる期間があり、月別の来院患者数でみると3月の来院患者数は若干少ない傾向であった。当科は、基礎疾患を有している患者や高齢の患者が多数来院しているのが現状である。こうしたさまざまな疾患を併発した患者や高齢の患者に対しても、口腔外科としての専門性を生かし、充実した全身管理のもと、より安全で高度な医療を提供するべく、診療の向上に努めていきたいと考えている。

No.22：東京歯科大学水道橋病院口腔外科における平成22年度外来初診患者の臨床的検討

永井佐代子, 伊藤和宏, 大岩浩気, 寺川 堅, 納賀優三, 牧野盛太郎, 高山裕樹, 天池舞美,
濱田裕嗣, 小川千晴, 弓井恵里, 山村哲生, 山本雅絵, 高久勇一朗, 秋元善次, 横山葉子,
笠原清弘, 高野正行 (東歯大・口健・口外)

目的：東京歯科大学水道橋病院口腔外科では日頃より地域医療施設との医療連携を重視しつつ診療に従事している。今回、今後の口腔外科に於ける医療提供の内容と質のさらなる向上を目指すために、平成22年度外来初診患者の臨床統計を行なった。

方法：平成22年4月1日から平成23年3月31日までの1年間における東京歯科大学水道橋病院口腔外科の初診患者を対象として、日本口腔外科学会調査企画委員会による実績調査表に準じて、性別、年齢分布、月別患者数、来科地域、受診経路、疾患別についての臨床統計を行なった。

成績：期間中に受診した初診患者数は6,835例(男性2,975例;44%,女性3,860例;56%)であった。年齢は乳幼児から90歳代までと幅広く、年齢別では20歳代が約25%を占め最も多く、次いで30歳代で約22%であった。月別患者数は平成22年7月が667例(9.8%)と最も多く、次いで平成22年10月が664件(9.7%)であった。最も少なかったのは、平成23年1月で487例(7.1%)であった。次いで、平成23年3月が510例(7.5%)であった。来科地域は東京都

内がほとんどで約78%を占め、その約89%が東京23区内であった。東京23区内では杉並区が8%で最も多く、次いで世田谷区であった。県別では東京都に次いで、埼玉県が8.4%、千葉が8.0%であった。受診経路は他の医院または歯科医院からの紹介受診がおよそ70%を占めていた。疾患別では歯の疾患が多く、中でも智歯に関連する疾患は全体の約49%を占めていた。ついで顎関節疾患が多く約6%であった。

考察：東京歯科大学水道橋病院は地下鉄、JR水道橋駅から数分という好アクセスに位置しており、受診経路は東京都内からの来院が大半を占め、他県からの来院は少ない。千葉県内の患者は東京歯科大学千葉病院や市川病院へ、都内からは水道橋病院へと三病院間で患者を分散されているためと考えられた。今後は、学内、院内はもとより地域の医療機関との連携をさらに密なものとし、多種多様な要求を持つ患者にも対応出来るよう、口腔外科としての専門性と全身管理の充実を図りながら、診療の向上に努めていきたいと考える。